

## 平成 25 年夏期（6 月～9 月）の熱中症による救急搬送の状況（総括）

平成 25 年夏期（6 月～9 月）の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を取りまとめましたので、その概要を公表します。

- 平成 25 年夏期（6 月～9 月）の全国における熱中症による救急搬送人員は 58,729 人でした。これは、6 月から調査を開始した平成 22 年以降、これまで最多であった平成 22 年の 56,119 人を上回る搬送人員数となりました。
- 救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 27,828 人と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）23,062 人、少年（7 歳以上 18 歳未満）7,367 人、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）466 人の順となっています。
- 医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が 36,805 人で最も多く、次いで中等症 19,754 人、重症 1,568 人、死亡 88 人の順となっています。また、初診時における死亡は、これまで最多であった平成 22 年の 171 名に比べ、83 人減少しています。
- 都道府県別の救急搬送人員は、東京都が 4,535 人で最も多く、次いで愛知県 4,090 人、大阪府 4,064 人となっており、大都市が多くなっています。一方、都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員についてみると、高知県が 75.09 人で最も多く、次いで和歌山県 70.64 人、熊本県 67.95 人でした。

### 【資料】

[平成25年夏期（6月～9月）の熱中症による救急搬送状況](#)  
[平成25年9月の熱中症による救急搬送状況](#)



(連絡先)  
消防庁救急企画室  
担当：日野原・伊藤・大迫  
電 話：03-5253-7529  
FAX：03-5253-7539

# 平成 25 年夏期（6 月～9 月）の熱中症による救急搬送状況の概要 （「夏期（6 月～9 月）」を以下、「夏期」という。）

平成25年夏期の救急搬送状況について取りまとめたところ、その概要は以下のとおりでした。

## 1 ポイント

- ・ 平成 25 年夏期の全国における熱中症による救急搬送人員は 58,729 人でした。これは、昨年に比べ約 1.3 倍増加し、6 月から調査を開始した平成 22 年以来、最多の搬送人員数となりました。
- ・ 救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 27,828 人（47.4%）と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）23,062 人（39.3%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）7,367 人（12.5%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）466 人（0.8%）の順となっています。
- ・ 医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が 36,805 人（62.7%）で最も多く、次いで中等症 19,754 人（33.6%）、重症 1,568 人（2.7%）、死亡 88 人（0.1%）の順となっています。
- ・ 都道府県別の救急搬送人員は、東京都が 4,535 人で最も多く、次いで愛知県 4,090 人、大阪府 4,064 人となっており、大都市が多くなっています。  
一方、都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員についてみると、高知県が 75.09 人で最も多く、次いで和歌山県 70.64 人、熊本県 67.95 人でした。

## 2 その他

- ・ 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
- ・ 消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記の HP で熱中症に関する情報及び、熱中症による救急搬送状況を提供しています。

消防庁熱中症情報 [http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

参考（気象庁「夏（6 月～8 月）の天候」、「9 月の天候」より）

「夏（6 月～8 月）の天候」太平洋高気圧が、日本の南海上から西日本にかけて強かったため、東日本以西は盛夏期に太平洋高気圧に覆われることが多く、北日本でも暖かい空気が流れ込みやすかったことから、全国的に高温となった。暖かい高気圧に覆われた 6 月中旬、太平洋高気圧が強まった 7 月前半、8 月上旬後半から中旬に北日本から西日本にかけて気温が平年よりかなり高くなり、東・西日本と沖縄・奄美では夏の平均気温がかなり高くなった。特に西日本では、夏の平均気温は +1.2℃と 1946 年の統計開始以来最も高かった。また、全国の気象官署のうち 26 地点で夏の平均気温の高い方からの 1 位を更新した。なお、全国のアメダス観測所 927 地点のうち 125 地点（タイ記録も含めると 143 地点）で日最高気温の記録を更新し、8 月 12 日には、江川崎（高知県四万十市）で日最高気温が 41.0℃となり歴代全国 1 位となった。

「9 月の天候」上旬は、秋雨前線が本州付近に停滞し、沖縄・奄美を除いて全国的に曇りや雨の日が多かった。日本の南東海上で勢力を強めた太平洋高気圧の縁をまわって湿った気流が流れ込んだほか、4 日には九州に上陸した台風第 17 号の影響も加わり、1～4 日は、西日本の各地で大雨となるほか関東地方の各地で竜巻が発生した。秋雨前線の北側には寒気も流れ込んだため、西日本では気温の低い日が多く、9 月上旬としては 20 年ぶりに旬平均気温がかなり低くなった。東・西日本では、この 15～16 日を除くと、中旬以降は移動性高気圧に広く覆われて晴れの日が多く、中旬の西日本および下旬の東日本日本海側と西日本太平洋側の日照時間は 1961 年の統計開始以来最も多くなった。